

私らしく輝くキャリアプランを描こう

～若手女性農業者実践力向上研修の開催～

1 活動のねらい

千葉地域の女性農業者は農業の担い手の約半数を占め、パートナーシップを発揮して経営全体の発展に多大な貢献をしている事例が多くあります。次世代の特に重要な担い手として若手女性農業者の就農定着支援を行い、自身の役割を明確化しパートナーシップ型農業経営を実践できる人材を育成するため、農業に関する知識の習得と仲間づくりを図るとともに、各々のキャリアを考えることを目的に、研修会開催などの普及活動を行いました。

2 課題の背景

若手女性農業者は結婚をきっかけとした就農者が多く、家事や子育てが多忙で農業に関する基礎知識や栽培技術、経験が不足しがちです。また、経営と生活の区分があいまいであるため、家庭との両立に悩む人が多い現状があります。

さらに、地域外から嫁いだ場合、周囲に似た環境の相談相手がおらず、悩みを抱えたまま孤立してしまうこともあります。また、支援する機関にも次世代の担い手となり得る若手女性の情報が少なく、支援が行き届かない場合もあります。

3 普及活動の経過・結果

(1) 掘起しの継続と集合研修による知識の習得

対象者について、45歳以下の認定農業者や認定新規就農者のパートナーである女性を課内で洗い出し、対象者の経営参画状況について市町村と連携し情報共有を行いました。この対象者の掘起しは研修会のたびに行い、年度末の対象者は17名となりました。

集合研修を3回開催し、うち1回は視察を行いました。

第1回は現在の自分の経営参画状況を把握するため、「自分棚卸シート」の記入を行いました。栽培技術や経営収支、作業の段取りについては、今はできていないという一方で、販売や家族の話合いについては工夫をしていることが分かりました。農作業事故のVR体験(仮想空間による疑似体験)も併せて行い、家族で取り組める安全のポイントについて理解を深めることができました。



写真1 農作業事故のVR体験をする参加者

第2回は労働条件を学ぶため、雇用者を活用している先進女性農業者から雇用する際の工夫について講義してもらいました。さらに、ワークショップでは農業と農家生活の両立のコツや気分転換の方法等についても助言をもらうことができ、参加者から「気持ちが軽くなった」「とても参考になった」等の感想がありました。

第3回は君津地域の女性が活躍している経営体の優良事例の視察を予定していましたが、コロナ感染の情勢が悪化したため、現地とオンラインで繋いで開催し、6名が参加しました。就農からどのように経営参画したかの経緯、将来のビジョン等について聞き、他地域の女性農業者との交流とともに、自身の今後のキャリアプランを作成する上での参考になりました。

1年間の研修を通して、若手女性農業者と地域の先輩女性農業者や同年代の農業者を繋げることができました。

(2) 個別巡回指導による欠席者への補習

残念ながら研修を欠席した対象者に対して、研修の内容を共有し興味を持ち続けてもらえるように、「若手女性農業者実践力向上研修 NEWS」を作成・配付し、個別巡回によって当日の様子を伝えました。

また、子育て世代の対象者の要望に応え、第2回からはイベント保育業者による託児室も設け、より多くの対象者に参加してもらえるように工夫しました。

今年度の視察先や次年度の研修内容は、参加者へのアンケート結果をもとにカリキュラムを作成しニーズに合った研修を行うことで、個々のキャリアプラン作成につなげていく予定です。

さらに、参加者の交流を促すため自己紹介カードを記入してもらい、一体感を高めることができました。



写真2 第2回フォローアップ資料

4 今後の課題

若手の女性農業者は子育て等多忙であるため、出席率が低い傾向にあります。引続き研修会を開催し、学びの場を確保するとともに、要望に対応できる工夫をしていきます。

5 担当者 市原グループ ◎内藤 千陽、間宮 ちさこ

6 協力機関 千葉市、習志野市、市原市、八千代市、千葉県担い手支援課